

# 令和5年度活動報告



J A えひめ女性組織協議会

## — 令和5年度 活動報告 —

### 1. 活動概況

我が国における新型コロナウイルス感染症は、第1例目が報告されてから約3年半が経過した5月8日に季節性インフルエンザと同じ5類感染症に移行し、感染対策については、個人の判断に委ねられることとなりました。Withコロナでの新たな生活様式の中、これまで希薄となっていた協同組合としての人と人との結びつきを再構築していく必要があります。

令和4年2月にロシアのウクライナ侵攻が始まり2年が経過しますが、未だ収束は不透明な状況となっています。また、中東情勢の不安定化により、国際情勢は混迷を深めています。加えて、長引く円安などにより、原材料価格や食料価格が高止まりし、農業者をはじめ国民の生活を圧迫しています。

また、食料・農業・農村基本法の見直しについては、令和6年1月の通常国会において改正法案やその関連法案など5つの農業関係の法案が提出され、改正案と関連法案が閣議決定されました。改正案では、法律の基本理念に「食料安全保障の確保」が新たに加えられたほか、農産物や農業資材の安定的な輸入、農業法人の経営基盤の強化およびスマート技術を活用した生産性の向上に取り組むとしており、その動向について注視する必要があります。

J Aが「組合員と地域住民にとって、なくてはならない組織」であり続けるため、組合員一人ひとりの「声」を聴き、対話を行う「組合員との対話運動」を通じて、組合員に評価されるJ Aらしい事業、活動等を展開することが求められています。J A女性組織としても、食と農の大切さやJ Aの良さを発信してきました。

J A女性組織3カ年計画「J A女性 想いをひとつに かなえよう🍀」実践2年目として、仲間づくりや学習活動を積極的に展開し、第38回J A愛媛県大会決議を踏まえ、J A活動との連携強化を図り、女性部ワンモアプラン運動などの展開によってJ A運営参画や組織活性化の強化にあたりました。更に、女性部の活性化および仲間づくりに資するため「全J A女性部加入・女性部員組合員化運動要領」に基づき、全J A女性部員の正・准組合員化・女性部員加入運動を展開した結果、163人が女性部に新規加入しました。

具体的には以下の活動をすすめてまいりました。

## 2. 主な活動内容

### (1) 第71回通常総会

5月10日、「JA女性 想いをひとつに かなえよう🍀」をスローガンに、代議員など86人が出席し、第71回通常総会を開催しました。

総会では、令和4年度の活動報告及び収支決算、令和5年度の活動計画及び収支予算などが提案され、全議案原案どおり承認されました。



《開会あいさつをおこなう西川会長》

#### ■令和5年度の重点活動

JAをよりどころとして活動し、地域を守る女性として、JA運動や地域農業の必要性を発信し、自ら組合員となって、協同組合の一員として地域で何ができるかを考え、協力しあいながら、自らの手で創造的に地域を輝かせ、組合員のアクティブ・メンバーシップを強化し、具体的には、地域農業を守り育てるため「地産地消」や「伝統食や家庭の味を次代に継承」する取り組みを通じて、地元産食材を活用し、女性部ワンモアプラン運動を継続する中で、支所・支店における協同活動などに主体的に取り組み、女性参画目標の達成を図ります。また、JA運営に対し積極的に意見・要望等を伝え、組織の活性化に向け、学習活動・仲間づくり・フレッシュミズ部会の育成など次世代のリーダー育成を図ります。

#### 【重点活動】

1. JA運営への参画促進の取り組み
2. 目的別グループ活動の取り組み
3. 食と農を守るネットワークづくりの取り組み
4. 暮らし・健康増進活動等の取り組み
5. 情報発信の取り組み

#### ■記念講演

(一社)家の光協会西日本普及文化局の松岡広大局次長を招き、「もっと知りたいSDGs」と題し講演をおこないました。



## 3. 具体的活動

### (1) JA運営への参画促進の取り組み

#### ① JA女性理事・経営管理委員・参与・女性部長等合同研修会

JA愛媛中央会とJAえひめ女性組織協議会は8月21日、JA愛媛において総合JAの女性理事、経営管理委員、監事、参与、女性部長33人が参加し、「JA女性理事・経営管理委員・参与・女性部長等合同研修会」を開催しました。

## ■研修「JA総代会資料の読み方について」

中央会JA支援部の門多部長より、冊子「まんがでわかる JA総代会資料の読み方（（一社）家の光協会発行）」を活用し研修をおこないました。参加者からは「何となく理解していたことが、ポイントを教わることで理解できた」「あまりにも初歩的な事で質問しにくかったことが理解できた」「もう一度資料を熟読しようと思う」などの意見がだされました。

## ■情勢報告

①「食料・農業・農村基本法をめぐる情勢とJAグループの取り組み～食料安全保障の強化に向けて～」中央会総合企画部の別府部長（JAえひめ女性組織協議会事務局長）より、②県1JA合併構想案の検討状況」中央会県1合併対策部の伊藤部長より説明があり、今後の動向を注視していく必要があります。

## ■グループワーク

「組合員・地域に貢献できるJAとは。それぞれの立場で何ができるか！」

今回の研修内容などを踏まえ、①JA役員として、②女性部活動を通じて、③地域や家庭においてそれぞれの立場で何ができるか、4年ぶりとなるグループワークをおこないました。

<主な意見は以下のとおり>

### ①JA役員として

- 組合員とJAの橋渡し
- 女性の声を繁栄しているJAは活発だけど、女性の声が通りにくいJAは衰退しているように思う
- 女性役員になってみると、意見をだせるようになるために勉強しなくてはいけないと思う



### ②女性部活動を通じて

- JAまつりなどを通じてJAのPRをしている
- 部員減少・高齢化・活動のマンネリ化など部員を減らさないように、新しい活動へのチャレンジを努力している
- 時代にあった女性部作り（LINEやSNSだけでなく顔が見える活動）



### ③地域や家庭において

- 子育て世代を応援して地域の行事や伝統料理の継承をしたい
- 朝市など地域で出来ることをしていく
- 女性部の声かけで買い物難民が助かった

## ②農青連・女性協合同によるＪＡ中央会常勤役員との対話学習会

ＪＡ愛媛青壮年連盟とＪＡえひめ女性組織協議会は３月１９日、ＪＡ愛媛で「ＪＡ中央会常勤役員との対話学習会」を開催し、執行委員や女性部長など３２人が参加しました。

この対話学習会は、ＪＡに結集する組合員組織とＪＡ中央会の情報共有化および交流・相互理解を深めることを目的に毎年実施しています。

ＪＡ中央会から「農政をめぐる情勢と今後の取り組み」「令和４年度対話学習会における意見への対応」「県１ＪＡ合併の進捗状況」について説明しました。

県１ＪＡ構想中間とりまとめでは、人口減少・高齢化など、農業・ＪＡをとりまく環境変化が激化する中、単独のＪＡでは解決し得ない課題を経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の結集により事業の再構築と最適化に取り組んでいくことの必要性を説明しました。

営農面では、新たな県産ブランドづくりや広域選果体制構築などロット確保による有利販売や予約購買率の向上や資材品目の集約などによるコスト低減を通じて農業者の所得増大につながる点を説明しました。

中央会からの情報提供後、両組織と活発に対話交流を行い、県１ＪＡ合併後の組織の在り方やデジタル機能を活用した営農指導についてなどの意見が出されました。

ＪＡ愛媛中央会は、両組織からの意見をふまえ、県１ＪＡの実現を目指し、組織整備の取り組みを進めるとしました。



## （２）目的別グループ活動の取り組み

### ①ＪＡ女性部フレッシュミズ研修会

７月１０日、ＪＡえひめ中央ＪＡ直営複合施設「みなとまち まつてる」にて、各女性部のフレッシュミズ組織代表者などの交流の場を設け、新たなＪＡ女性部活動のリーダーと



しての自覚を促し、フレッシュミズ部会活動の活性化を図ることを目的とし、フレッシュミズや女性部長・事務局など34人が参加し、「笑顔はじけるフレミズ媛(プリンセス)🍀あすへ向かってジャンプ💖💖」をテーマに「JA女性部フレッシュミズ研修会」を開催しました。

#### ■講習

ガーデン工房はなの仲口由美氏をお招きし、「カッティングボードで華やか💖💖多肉植物の寄せ植え」をおこないました。



#### ②農青連・女性協組織交流会

JA愛媛青壮年連盟・JAえひめ女性組織協議会は7月10日、JAえひめ中央にて「農青連・女性協組織交流会」を開催し、県内の盟友や女性部員など95人が参加しました。

本交流会は、各JA青壮年部盟友とJA女性部員が一同に会し、組織の一層の強化発展と活動の活性化を図ることを目的として合同で開催しました。

#### ■組織親睦スポーツ大会 (ボウリング)

<個人戦 (農青連)>

優勝：谷脇孝紀さん

(JAえひめ南青年部)

準優勝：毛利武司さん

(東宇和農協青壮年部)

第3位：安友涼梧さん

(JAえひめ中央青壮年部)

<個人戦 (女性協)>

優勝：菊池治子さん

(JAにしうわ女性部)

準優勝：澤近春奈さん (JAえひめ南女性部)

第3位：宇都宮裕子さん (JAにしうわ女性部)



## ■ J A 青年の主張愛媛県予選

審査の結果、「一次産業で地域の雇用を守る」と題して発表した豊田聡一さん（J A 周桑農業振興協議会青年部）が、サラリーマンから7年前に郷里に戻って新規就農されました。まわりの人たちと共同経営を立ち上げて成長してきた過程、また、一緒に作業してきた方が亡くなるなどの経験から、一緒に働きたいという15歳から58歳までの人を全て雇用し、協力雇用主という活動にも参加し、少年院、刑務所、鑑別所などから出所した人たちを受け入れています。その人達が将来農業で独立し、一緒に地域の農業を盛り上げ、農業には無限の可能性があると信じ、一次産業で地域の雇用を守るという使命を胸に、人・地域とのつながりがあってこそその取り組みが評価され、最優秀賞となりました。



豊田さんは県代表として11月16日に広島県で開催された「中国・四国地区 J A 青年大会」に出場しました。

### ◆その他の発表者

J A 松山市青壮年部 山内捺暉さん

「これが僕の生きる道」

東宇和農協青壮年部 岡崎晃裕さん

「陸の孤島で食料安全保障を考える」

## ■ フレミズ活動“わたしの一歩” 作文コンクール

審査の結果、「みかんとフレミズと私」と題して発表した阿部絵美子さん（J A にしうわ女性部）が、横浜出身の阿部さんがご主人と出会い愛媛県に移住し間もないころは、友達も増えず寂しい思いをされ、大きな転機としてフレミズとの出会いがありました。先輩女性部の方々と合同で活動し、幅広い年齢層がつながり、仲良くなるなど活動の工夫がされている一方で、部員減少の不安を抱えながら、地元で活気を取り戻すための活動に貢献してきました。愛媛県の一大産業を担う「みかん農家で働くフレミズが、地域の盛り上げ役」であり続けるなど、今後への思いも綴られた内容だったと評価され、県代表として、全国の作文コンクールに応募しました。



### ◆その他の発表者

J A えひめ中央女性部 本田侑香さん

「祖母と母と私とフレッシュミズ」

JAえひめ南女性部 三好まさみさん

「わたしの一步」

#### ■ JA青壮年組織活動実績発表

JA青壮年組織活動実績発表は、「三崎STRONG ～俺たちの三崎ブランド～」と題し発表した山下淳さん（西宇和青壮年同志会）は、愛媛県代表として11月16日に広島県で開催された「中国・四国地区JA青年大会」で発表しました。



《左から3番目：阿部さん、中央：豊田さん、右：山下さん》

### ③ワークショップ ～水引の魅力を学ぼう！～

ウィズコロナからアフターコロナへの転換期を迎え、新しい取り組みにチャレンジし、JA女性部活動の再構築と組織の拡充強化を図り、部員相互の交流の場とし、いきいきとした活動の輪を広げることを目的とし、昨年度に引き続きJA愛媛にて「ワークショップ ～水引の魅力を学ぼう！～（3回コース）」を開催しました。

#### ■ワークショップ ～水引の魅力を学ぼう！～

㈱有高扇山堂専務取締役・水引デザイナー・えひめ伝統工芸士の有高智佳代氏をお招きし、①えひめ伝統工芸品である水引きが出来るまでの工程を学習 ②冠婚葬祭など想いを贈る日本の文化「包む・結ぶ」を学習 ③四季折々の行事ごとを学習し、水引きを通して様々な作法や慣習にふれることができました。



<第1回>「～花飾り～ ペンダント&ブローチ」

令和5年7月25日（火） 参加者29人

<第2回>「～水引きの基本的なマナーと種類・結び方を学ぼう～」

令和5年8月24日（木） 参加者32人

<第3回>「～次世代へ繋ごう！結愛（ゆめ）ある世界～」

令和5年9月26日（火） 参加者34人



#### ④ J A 愛媛文化フェスタ

J A 愛媛中央会と J A えひめ女性組織協議会は9月5日、J A 愛媛において、家の光愛読者・女性部員や J A 役職員など87人が参加し「J A 愛媛文化フェスタ」を開催しました。

同フェスタは、「全国家の光大会」県代表者の選考と『家の光』記事活用グループや組織活動の活性化を目的に毎年開催しています。

##### ■体験発表

審査の結果、「備えあれば憂いなし」と題して発表した土居典子さん（J A ひがしうわ女性部）が最優秀となり、県代表として本年2月に開催された「第65回全国家の光大会」に出場しました。

『家の光』の防災ずきんの記事活用から防災について学び、防災士の資格をとり、西日本豪雨の際にも役立った。

『家の光』付録「家族みんなの防災ノート」に出会い「自主防災新聞」の発行での地域貢献、行政への働きかけをおこなっているなど、記事活用についての発表が評価されました。



◆その他の体験発表者≫

J A松山市女性部 奥岡日登美さん

「料理も手芸も体操も

『家の光』を参考に！」

J Aえひめ中央女性部 宮本洋子さん

「『家の光』から夢を貰う

特産品開発」

J Aえひめ南女性部 田中美鶴さん

「『家の光』は私のパートナー」



<左から奥岡さん、宮本さん、  
最優秀となった土居さん、田中さん>

■記念講演

記念講演では、(一社) Food Communication Compass代表の森田満樹氏とオンラインでつなぎ「食べ物を選ぶ力は一生もの～食品表示を見方につけよう～」と題し講演をおこないました。講演では、『家の光』2023年9月号の活用として、食品表示法に基づく表示義務や健康づくりに向けた栄養成分表示の活用方法などを学びました。

■申し合わせ

「J A運動に参加・参画する仲間づくりのため、愛媛県教育文化活動「家の光三誌」長期愛読者拡大運動の目標必達に向け、J Aに結集する協同の輪を広げる」などの申し合わせを採択しました。

⑤第7回フレミズ媛（プリンセス）大学

10月3日、フレッシュミズ世代の活動強化を図るため、J Aえひめ中央J A直営複合施設「みなとまち まってる」において、フレッシュミズや女性部長・事務局など34人が参加し、「フレミズ媛(プリンセス) 想いをかたちに未来へつながろう」をテーマに第7回フレミズ媛（プリンセス）大学を開催しました。

■料理教室

エーコープこめ油製造メーカーの築野食品工業(株)の笠原美香子氏をお招き「エーコープこめ油を使った災害食」の料理教室をコロナ発生以降4年ぶりに開催しました。笠原先生から、「災害食と強く考えずキャンプ飯と考えるとよい。缶詰めを備蓄していると賞味期限のチェックが大変。普段から乾物など料理に使うようにするとよい。」など、いざという時に役立つ、日頃からの備えの必要性について学びました。



## ■講 話

J A愛媛厚生連健康管理部健康指導課長補佐の後藤昌栄氏をお招き「時間栄養学～賢く食べて体内時計をリセット～」と題し、①朝食を摂るメリット ②昼食欠食が招く高血糖 ③夕食の時間帯 ④間食について、賢い食事の摂り方を学びました。

## ■講習会

10ju（ジュジュ）代表の西川千愛氏をお招き「ネイルケア」と題し、自宅で空いた時間でできる爪のお手入れの仕方、ジェルネイルとマニキュアの違いなどを学びました。参加者からは、「日々のお手入れを大切にしたい」「爪がキラキラになってテンションあがりました。家でも活かそう」「日々、身体に気をつけたり、美容に気をつけたり、もっと自分と向き合う時間を大切にしたい」などの感想が述べられました。

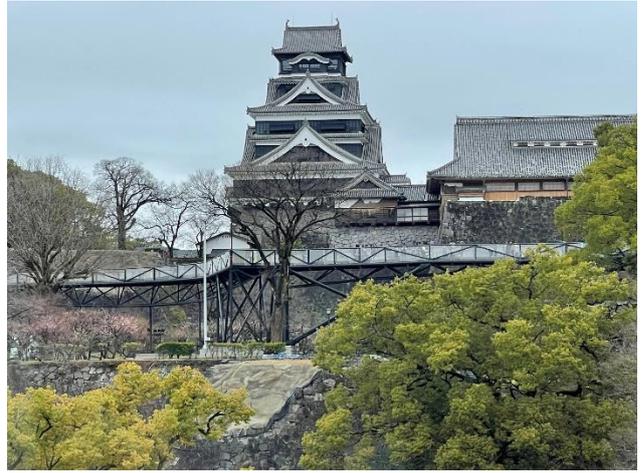


## ⑥第2回媛の旅

今回は、熊本・長崎方面へ（1泊2日）2月9日～22日の間、4班編成で、『長崎ランタンフェスティバルと復興後の熊本城と城彩苑 2日間』とし、県内の女性部員など343人が参加しました。

今回は、期間限定（2月9日～25日）「長崎ランタンフェスティバル」を目玉に県内各地よりバスにて出発し、国道九四フェリーにて三崎港から佐賀関港へ渡り、一路長崎県へバスを走らせ、夜は色鮮やかな長崎ランタンフェスティバルを楽しみました。

2日目は、2016年熊本地震の際、復興の一助を担えればとママさん大学（現在は媛の旅と名称変更）で熊本県を訪れ、2021年熊本城天守閣復旧を受けて、復興中の熊本城を見学し、県下各地帰路に着きました。



### ⑦ J A 女性部組織活動研修会

3月11日、J A 愛媛において、J A 女性部員、事務局など90人が参加し「令和5年度 J A 女性部組織活動研修会」を開催し、活動体験発表などをおこないました。

#### ■ 体験発表

活動体験発表は4人がおこない審査の結果、「人と人をつなぐ架橋～フレッシュ16いつまでも～」と題して発表した、J A 越智今治女性部フレッシュ16支部の徳丸和江さんが最優秀賞に選ばれました。自身は非農家で女子大学への参加をきっかけに J A と関わりを持つようになり、経営管理委員を引き受け、2016年に「フレッシュ16支部」を立ち上げました。結成当初27人のメンバ



ーが年々増加し現在139人に成長させ、実績が明確で圧倒的な成果。また、准組合員が多いフレッシュ16支部メンバーの農業をしたいという意向をくみ取り、「フレッシュ16農園」を開園。女性部の先輩から女性部の成り立ちや活動を教わるなど学ぶ姿勢や若い世代に合わせて、連絡・出欠確認にLINEを活用するなど、部員維持のためきめ細やかに対応している点が評価されました。

徳丸さんは、本年7月に愛媛県で開催される中四国地区 J A 女性組織リーダー研修会で本県代表として発表します。

#### ◆ その他の組織活動体験発表者

J A えひめ未来女性部新居浜ブロック多喜浜支部 井下ちづるさん

『かしょい』の心で

J A 松山市女性部石井支部 名田博美さん

「コロナ禍でも笑顔で活動！地域も笑顔に！」

J A愛媛たいき女性部南久米支部  
井上幸恵さん  
「家の光とともに～女性の力で！  
地域を元気に！～」

#### ■講話&体操

J A愛媛厚生連健康管理部健康指導課長補佐の後藤昌栄氏から「時間栄養学～賢く食べて体内時計をリセット～」と題し、講話と体操をおこないました。



<左から名田さん、井下さん、  
最優秀賞となった徳丸さん、井上さん>

### (3) 食と農を守るネットワークづくりの取り組み

#### ① J A健康フォーラム2024

1月25日、愛媛県生涯学習センターにおいて、「脳の活性化で生き生きライフ～動く・食べる・繋がる 心と身体の二人三脚～」をテーマに、各J A・J Aえひめ女性組織協議会・J A愛媛厚生連の共催により、「J A健康フォーラム2024」を開催しました。女性部員・J A役職員・各保健所・市町関係者など338人が参加しました。

#### ■学習・研修会

J A愛媛厚生連管理栄養士の後藤昌栄氏が「いつもの料理が脳活に！！」と題し講演をおこないました。

#### ■女性部企画

体験発表 J Aにしうわ女性部：河本眞子さん 「私 また 動きます！」  
アトラクション J A愛媛たいき女性部 「マツケンサンバⅡ」  
J Aひがしうわ女性部 「東京ブギウギ」

#### ■学習会

ラジオパーソナリティの井坂彰氏をお招きし「生き生き生きるために」と題し学習会をおこないました。

#### ■申し合わせ

体操や料理を通じて笑顔を増やすことが日々の健康に結びつくことを再認識し、「がん及び生活習慣病予防のため、日頃の生活習慣を見直すとともに、年1回必ず検診を受診します」「楽しく・健康的な」生活を送るために、笑顔で健康に暮らせる地域づくりを目指します」などの申し合わせを全会一致で採択しました。

#### ②マイ箸・マイお茶運動の実施

平成19年度から取り組んでいるマイ箸・マイお茶運動については、引き続き、年間を通して取り組みました。

## 4. その他の取り組み

### (1) 中国四国地区 J A 女性組織リーダー研修会

J A 中四国地区女性組織協議会は、7月6日～7日に島根県において、中国四国地区各県女性組織、フレッシュミズメンバー201人(本県17人)が参加し、中国四国地区 J A 女性組織リーダー研修会が開催されました。

各県代表者9人による J A 女性組織活動体験発表では、本県代表である岡田三知代さん(J A 周桑女性部)が「地域と多賀女性部と私」と題して発表しました。

審査の結果、『「信頼、思いやり、感謝」手と手をつなげよう女性部活動」と題して発表した、J A しまね出雲女性部の今岡千恵子さん(島根県代表)が中四国代表として選ばれました。



記念講演では、フリーアナウンサーの石原美和氏より「あなたの魅力がアップするコミュニケーション術」と題し、コミュニケーション術として、①人前で話すことなど、経験をすることが成長につながる。②人と比べない。その人にはなれない。③何故緊張するか。何故なら、自信がない。自身を良く見せようとする。失敗を恐れない。④会話はキャッチボール。相手が受け止めやすい話し方。⑤相手からこうしてほしいだけでなく、全て自分から行動する。など「チャレンジすることが成長につながる」と講演されました。

研修会として、SDGs de 地方創生 公認ファシリテーターの洋谷友子氏より「風水害24からSDGsを考える」と題し、毎年相次ぐ豪雨、台風の大型化、海面水位の上昇など、気候変動による災害または自然災害が容赦なく襲い掛かり被害をもたらしています。風水害24というツールを用いて住み続けられるまちづくりについて考える研修でした。

### (2) 第17回 J A 中四国地区女性組織フレッシュミズ交流集会

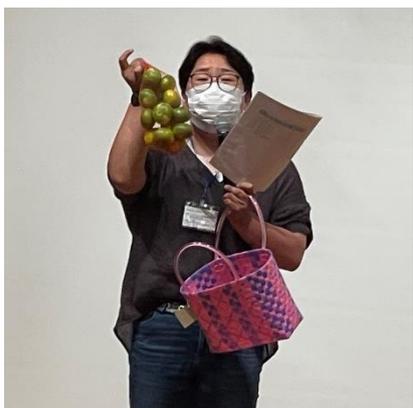
J A 中四国地区女性組織協議会は、9月13日～14日に鳥取県において、中国四国地区のフレッシュミズなど92人(本県6人)が参加し、中国四国地区 J A 女性組織フレッシュミズ交流集会を開催しました。

活動事例発表では、J A かいふ女性部フレッシュミズ部会フレミズ95%の数度泰葉さん(徳島県)が「フレミズ95%～かいふの特産きゅうりと仲間づくり」と題し、J A 鳥取いなば女性会フレッシュミズべっぴん部会の松下聡子さん(鳥取県)「ひとりフレミズ」と題し2名が発表しました。

記念講演では、大山乳業農業協同組合代表理事組合長の小前孝夫氏より「日本一老けない牛乳は鳥取にあり！」と題し講演がおこなわれ、参加者(酪農家)から「餌・飼育環境に気を付けている。餌代などコストがあがって続けていくのが大変

となっている。」「飼料価格が乳価に反映される仕組みを作って欲しい。」など意見がだされた。

J Aまつりやイベント等で、「女性部・フレミズ活動の発信」「部員の増加」「活動のステップアップ」「情報交換」「つながり」「ご褒美」などのフレッシュミズ部員の願い・夢を叶えるための第一歩として、POPの書き方や売り込みの声掛け、陳列の仕方などの学びの場・体験研修の場として「フレミズマルシェ」を開催し大盛況でした。



研修として、(株)山陰放送 山陰ウーマンズラボ所長（山陰放送アナウンサー）の丸山聡美氏より「いきいきと輝く女性が増えれば地域は元気に！」と題し、いきいきしていると人は？①笑顔の素敵な人。②やりたいことをしている人。③誇りをもって何事も楽しんでいる人。など、外見・内面ともに心から輝ける女性を増やすことを目指し4月に立ち上げ、「自分が輝くことで、地域も元気に！いろいろな相乗効果を体感中」だと講演されました。

### (3) 第27回 J A女性組織フレッシュミズ全国交流集会への参加

J A全国女性組織協議会は、10月26日～27日にJ Aビル（東京都）にて「第27回 J A女性組織フレッシュミズ全国交流集会」が開催されました。

各都道府県のフレッシュミズメンバーなど83人（本県3人）が参加しました。「フレミズ活動 わたしの一歩！」作文コンクール」では、最優秀賞のJ Aおきなわ八重山支店女性部の仲嶺智美さん（沖縄県）が「目指すは意識高い女性」、優秀賞のJ A福山市女性部フレッシュミズ部会の石井早苗さん（広島県）が「家庭菜園の話をしたかっただけなのに、気付いたらトマトジャムを販売していた件」、優秀賞のJ Aふくおか八女フレッシュミズの野上香織さん（福岡県）が「変える！変わる！フレッシュミズとこれからの私！」と題し、受賞者3人の発表がありました。

講義として、J Aさが中部地区女性部本庄フレッシュミズ部会の北島久美子氏より「フレミズ活動PRにつなげるためのデザイン術」と題し、チラシは読み物ではなく見る物。見てもらうために①配色は3色（ベースカラー70%メインカラー25%アクセントカラー5%）を意識する。②余白は大切（目立たない部分

を自然に強調できる) 行間も余白の一つ。③同じ書体・フォントでまとめるとよい。など学び、デザインプレート「キャンバ」を使って早速PR資材作りをおこないました。

㈱有高扇山堂専務取締役・水引デザイナー・えひめ伝統工芸士の有高智佳代氏とオンラインでつなぎ、水引アクセサリー作り「自らの手で彩る古来の美風🍀～梅結びのピアス(イヤリング)～」をおこないました。

#### ■申し合わせ

「学び多く楽しい活動をフレッシュミズ自らの手で！その楽しさをみんなの力で全国へ広げよう！」をテーマとし、自身が活動の楽しさを再発見し、全国の仲間たちに情報を発信し、「食」や「農」を意識したよりよい日々を積み重ね、JAと連携し、「わたし」「なかま」「ちいき」それぞれのステップで輝く存在となることなどの申し合わせが満場一致で採択されました。

### (4) 第69回JA全国女性大会

JA全国女性組織協議会は、1月17日～18日にホテルイースト21東京(東京都)にて「第69回JA全国女性大会」が開催されました。

各都道府県JA女性組織、フレッシュミズメンバーら420人(本県からJA女性部長やフレッシュミズなど8名)が参加しました。

大会では、JA女性組織活動体験発表入賞者6名、「フレミズ活動 “わたしの一歩”」作文コンクール入賞者6名の表彰があり、それぞれ発表がおこなわれました。

30秒間スピーチでは、「女性組織でかなえたい！わたしたちの地域の『夢』」をテーマに、本県代表として別宮五鈴フレッシュミズ部会長(JAひがしうわ女性部)が「女性部に入って一緒に活動してみたいと思われる仲間づくり、笑顔と愛があふれる女性部を目指していきたい」とPRしました。

記念講演では、シャンソン歌手の佐々木秀実氏をお招きし「トーク&ミニコンサート」おこないました。佐々木さんは、「自分の人生は自分しか変えられない。自分自身と向き合う1日の時間は長い。自分磨きを忘れてはいけない。(外見だけ磨き、人を馬鹿にするはダメ)心に余裕ができると豊かさができる。自分のできる範囲で日々を大切に生きる。」など、子供の頃からの様々な経験、自らがジェンダーであること、ジャンルにとらわれない音楽性、圧倒的な歌唱力で会場を盛り上げました。

#### ■大会宣言採択

振り返ってみて、社会を一変させたコロナ禍であっても、「できることから取り組もう！」という、ひとりひとりの前向きな気持ちが支えとなり、ようやく以前のような対面の活動が全国各地で再開されはじめました。全国の仲間と想いをひとつに、人と人とのつながりを大切にJA女性組織と私たちを取り巻く地域の「幸せ」の実現をめざしていきます」旨の大会宣言が採択されました。